



いませんが、外用として吹き出物や炎症性の腫れ物に使用されていたことがあります。

- ・ *Calcarea hypophosphorosa* $\text{Ca}(\text{H}_2\text{PO}_2)_2$: このレメディの作用は *Calcarea phosphorica* と似ています。とくに膝の関節疾患、新生児眼炎、角膜炎、肺の疾患、低カルシウム血症などに使用されます。
- ・ *Calcarea iodata* $\text{CaI}_2 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$: 扁桃炎やジフテリア、顎下腺の腫脹、アデノイド、子宮線維腫、乳腺腫瘍、静脈瘤性潰瘍、思春期の甲状腺腫などに使用されています。
- ・ *Calcarea lactica natronata* : 貧血、血友病、じん麻疹、凍傷、アレルギー性喘息などに使用されました。
- ・ *Calcarea lacto phosphata* (*Calcarea lactica phosphorica*) : 周期性嘔吐症や片頭痛などに使用されています。
- ・ *Calcarea lactica* $\text{Ca}[\text{CH}_3\text{CH}(\text{OH})\text{COO}]_2 \cdot 5\text{H}_2\text{O}$: 頭痛や鼻炎、しもやけ、じん麻疹、貧血、過換気症候群、甲状腺疾患などに使用されています。
- ・ *Calcarea muriatica* CaCl_2 : 頭皮の湿疹やおでき、

膿痂疹、胃の痛みを伴う嘔吐、子供の腺病などに使用されてきました。

- ・ *Calcarea nitrica* CaNO_3 : ほとんど臨床で使われていませんが、*calcarea* と *nitricum* の組み合わせでは、おそらく恐怖症に有用なレメディと推測されます。
- ・ *Calcarea ovorum* (*Calcarea ovi testae*) : 女性の背中が2つに裂けるような痛みや癌の痛み、帯下、いぼなどに使用されてきました。疲労感を伴います。
- ・ *Calcarea oxalica* $\text{CaC}_2\text{O}_4 \cdot \text{H}_2\text{O}$: 主に、乳腺癌が裂開した場合や潰瘍化した場合の激しい痛みの補助、腎臓結石予防に使用されてきました。
- ・ *Calcarea picrata* ($\text{C}_6\text{H}_2\text{N}_3\text{O}_7$) 2C_a : 耳道の炎症で、*Hepar sulphur* や *Picric acidum* でうまくいかなかった場合に使用されます。また、毛包周囲炎や再発性の炎症性の腫れ物などにも使用されてきました。
- ・ *Calcarea silicata* : ゆっくりと進行する疾患に、深く長く作用するレメディです。このタイプは、やせていて体力がなく、体も冷たくて寒がりです。外の風ですぐに風をひいてしまいます。自分にまったく自信がなく、決断力也没有。多くの不安感や予期不安をもっています。このレメディの特徴は、自信の欠如と死者との会話をすることです。臨床では、とくににきび、酒皰（赤鼻）、膿瘍、白内障、痔瘻などに使用されます。また、このタイプで、*Calcarea carbonica* や *Silica* の症状をもつ場合にも適用されます。
- ・ *Calcarea silico fluoride* $\text{CaSiF}_6 \cdot 2\text{H}_2\text{O}$: 癌、とくに腺癌、腺組織の腫脹、乳児期甲状腺機能低下症などに使用されています。
- ・ *Calcarea stibiato-sulphurata* (*Calcarea sulph stibiata*) : 子宮筋腫に使用されることがあります。

Calendula officinalis マリーゴールド [皮膚の外傷、切り傷]

Calendula officinalis L.

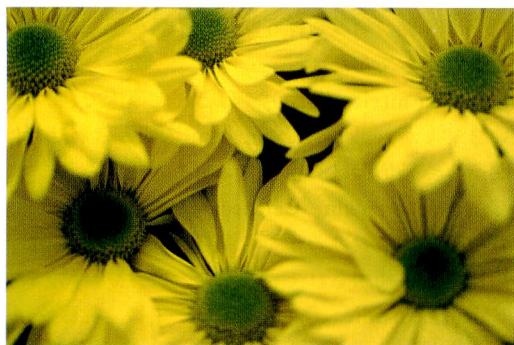
BACK GROUND

Calendula は、園芸で人気のマリーゴールドです。マリーゴールドの名は、この植物が中世の教会の祭りで聖母マリアに捧げられていたことに由来します。*Calendula* の語源は、ラテン語の *calends* (月の初日) に由来します。それは、この花が原産地のエジプトや南ヨーロッパでは1年を通して開花するからです。花

は日の出とともに開花して、日没とともに閉じます。

この植物は、薬草のほかにも食用、化粧品、染料、儀式などに使用されてきました。

メディカルハーブとしてのマリーゴールドの使用は、幅広く多岐にわたります。魔法の草とも呼ばれていました。この植物には、多くの有機酸やサリチル酸、カロチン、マンガネーゼ、トリペルテンなどがあり、



その免疫系を強める作用や抗菌作用、抗炎症作用などから、感染症の治療に使われてきました。

最近の研究では、インフルエンザやヘルペスなどのウイルスの増殖を抑えたり、菌の増殖を抑えるほか、寄生虫の活動も妨げることがわかっています。また血行を促進させ、発汗作用があるために、体に溜まった毒素の排泄や発疹の治療に有用です。さらに、女性の生殖器との親和性が高く、月経周期を正常化したり、月経困難の治療に、またそのエストロゲン様作用により、更年期障害や子宮筋腫、卵巣嚢腫、乳腺炎などにも使われていました。ただし、子宮の筋肉に影響し、出産時の収縮促進作用から妊娠中の使用は控えます。また、消化器系の各種疾患、関節炎、リウマチにも利用されました。

外用としては、切り傷、創傷、ただれや潰瘍の治療、化膿止め、止血剤として有効です。マリーゴールドは、創傷のダメージを受けた組織の回復を促進させ、炎症や腫れ、うっ血を改善させます。打ち身や捻挫には湿布をします。また、口腔内洗浄液や陰洗浄液、眼の洗浄液としても有効です。

MATERIAL

花と葉を原料にします。ArnicaやBellis perennisと並ぶ外傷治療薬です。

AFFINITY

Calendulaは、外用と内服と両方に使用します。創傷の治療を非常に早めてくれます。皮膚に損傷のある外傷には、このCalendulaを使用します。このレメディは、主に軟部組織、皮膚、筋肉、脊髄、肝臓に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

■外用

- ・皮膚の外傷、切り傷、火傷
- ・傷の治りが遅いとき
- ・外傷後の潰瘍化
- ・洗眼
- ・うがい薬：口の中に傷ができた場合

■内服

- ・外傷、切り傷
- ・抜歯後の出血
- ・静脈瘤、静脈瘤性潰瘍
- ・手術後の傷の治療促進に
- ・外傷による筋肉や腱の損傷
- ・角膜の傷
- ・鼓膜が破れたとき
- ・出産時の陰唇の裂傷、子宮頸管部のポリープ



MODALITY

- まったく動かずに横になること、歩き回ること、暖かい気候、歩くことなど
- ◀ 湿った気候、寒くて曇った日、夜、食後など

RELATIONS

- ・ Antidotes : Chelidonium majus, Rheum palmatum
- ・ Complementary : Hepar sulphur
- ・ Antidoted by : Arnica
- ・ Incompatible : Camphora
- ・ Compatible : Arnica, Arsenicum album, Bryonia, Nitricum acidum, Phosphorus, Rhus toxicodendron
- ・ Follows well : Arsenicum album
- ・ Followed well by : Arnica, Hepar sulphur